



ほゝえみは、モスクワで。



ПУТЬ К МЕДАЛЯМ

# 魅れ魔女

モスクワオリンピック記念日ソ合作映画

製作●東映株式会社+モスフィルム+ソヴンフィルム合作公団〔カラー作品〕佐藤純弥監督作品



ПУТЬ К МЕДАЛЯМ

甦れ魔女

一九六四年、東京、日本1位、ソ連2位。
一九六八年、メキシコ、ソ連1位、日本2位。
一九七二年、ミュンヘン、ソ連1位、日本2位。
一九七六年、モントリオール、日本1位、ソ連2位。
一九八〇年、モスクワ、？

かいせつ



一九八〇年のモスクワオリンピックの国家事業の一環としてソ連と東映が共同製作。日本体育協会、日本バレーボール協会のバックアップを得て堂々撮影を開始するこの映画は、五輪競技の花形種目、世界女子バレー界で宿命のライバルといわれる日ソ両国選手がモスクワめざして猛烈な練習に明け暮れる戦いと友情を描く青春ドラマである。日ソそれぞれのヒロインとそのチーム、監督、恋人、家族等が、主な登場人物であるが、ヒロインが高校、実業団、ナショナルチームへと、肉体と精神を消耗させながら、そのかなたに光り輝く金メダルを追う姿を中心に描くため、東映ではスターや素人からなる架空の実業団チームを作り、バレーボール協会の森原一女子強化部長、もと東洋の魔女、千葉勝美、岩原豊子選手らによる技術指導、猛特訓を受けてきました。

日本側の主なキャストは、二千八百人の応募者の中から抜きされた磯貝恵をヒロインに、西郷輝彦、三橋達也、中村玉緒他が共演。ソ連側は、タチアナ・ワスエヴァ、イナラ・グリエバ、ワアレリ・リジヤコフ、ミハエル・ポヤルスキーらが出演します。演出は、人間の証明、野性の証明の好調佐藤純弥監督が担当する話題作です。

ものがたり

80年のモスクワオリンピックを前にして、東京オリンピック以来宿命のライバルとなった日ソ両国に新しいヒロインが、誕生しつづであった。瀬戸内の小島に育った大柄な少女三木伴子（磯貝恵）と、モスクワのシベリアアツツチームのエース、ターニア（タチアナ・ワシレエヴァ）は、きたるべき対決の日を目指して、猛練習に明け暮れていた。

伴子は、只一人の肉親、母親のイネ（中村玉緒）を白血病で失い、沈む気持を奮いたたせ、監督に決った吉岡（西郷輝彦）とともに名門アツツ産業チームに入社する。秀れた素質を持ちながら、指導者不在のため低迷していたアツツチームは、吉岡と伴子の加入で甦った。そして、協会強化委員長の増田（三橋達也）の要請で、伴子は全日本へ参加することになった。

ターニアもコーチのカメネツキとの二人三脚で、めきめきと頭角を現わし、ナショナルチームに参加、日ソ対抗のため、伴子の待つ日本へくることになった。ターニアもモスクワでは、人気歌手バルテネフとの恋愛、そして別離。いく多の試練を経て、一段と成長した。

伴子は、全日本の練習中、骨折し、再起を目指して吉岡と懸命のトレーニングをしていた。砂浜を走る松葉杖の伴子の前にターニアは、その笑顔を見わした。国境を越えた友情が日ソの少女の間を電光のように閃いた。ことばは通じなくとも、心に通う温いぬくもりがすべてを語っていた。明日からはライバルである。日ソ両国の名誉を賭けて、バレーコートの中に青春の証しを叩きつけるのだ。

おくりこ

●力感溢れるバレーシーン 実技優先で選ばれた「魔女」達は、一ヶ月以上に亘って千葉（旧姓松村）勝美、岩原豊子の元魔女達のコーチを受け、元魔女をして、今や実業団チームとしてもかなりの水準にまで達したといわしめる程に鍛え上げられた。又、ソ連側も、東京・メキシコ大会と、ナショナルチームの監督をしたN・クレシヨフを迎え、本番さながらの特訓を受け、実戦もかくあらんというまでの迫力のあるバレーシーンを創り上げている。

●古都を結ぶ友情（レニングラードと京都）

迫力のあるバレーシーンもさることながら、日ソの少女達の生きざまを彩る景色も美しい。二ヶ月の長期ロケを敢行した日本の京都と比肩すべき水の都・レニングラード。その古きたずまいの中で展開するソ連側ヒロイン・ターニアの愛と別離。湖畔の夕陽に赤く染って再起を誓う日本側ヒロイン伴子。日ソの古都を背景に、いやがうえにも対決の時は近づいてくる。

●国際派の鬼才 佐藤純弥監督

陸軍残虐物語（昭38）で監督としてデビュー以来、その鮮烈な映像美でファンに深くアツビールしてきた佐藤純弥は、日本唯一の国際派監督として、その頂点に位置される。

荒野の渡世人（昭43）でオーストラリア、ゴルフ13（昭48）でイラン、そして昨年の野性の証明でアメリカロケと、まさに国際舞台狭しの活躍ぶりである。

その佐藤純弥が、古巣東映に戻り、モスクワオリンピック記念日ソ合作映画「甦れ魔女」のメガホンをとることになった。二ヶ月以上に亘るソ連ロケ中も、ソ連側スタッフ、キャストを含め国際派監督としての佐藤純弥の声価は高く、「ハラジョ（素晴らしい）」の声が、関係者の中に満まっている。

スタッフ

- 総指揮 岡田 茂
プロデューサー N. 登石 恒
脚 本 V. ツェトリン 寛夫
監督 佐藤 純弥
録音 市村 肇
美術 鈴木 宏
音楽 A. リバ 始良
制作担当 財団法人日本体育協会

キャスト

- 伴子 磯貝 恵
ターニア タチアナ・ワシレエヴァ
カメネツキ ヴアレリ・リジヤコフ
ワニーヤ アクワセイ・モクローソフ
サーシャ ミハイル・ヴァルスキー
スベトラナ アナトリー・ロマシン
オーリヤ イナラ・グリエヴァ

4月5日(土)大公開

東京音協4月例会作品
特別鑑賞券絶賛発売中！
¥880 (当日一般1300円 学生1100円)

各館共通

丸の内東映 (535) 4741

新宿東映 (351) 3060

渋谷東映 (400) 1277

横浜東映 045 (261)3800